

# Mizuho Bangkok Daily Market Report

Dated of 2023/08/15

## Forex

	Close	CHANGE
USD/THB	35.25	0.16
JPY/THB	0.2420	-0.0001
USD/JPY	145.56	0.60
EUR/THB	38.43	0.01
EUR/USD	1.0906	-0.0043
USD/CNH	7.279	0.019
SGD/THB	25.98	0.03
AUD/THB	22.86	0.06
USD/INR	82.96	0.12
USD Index	103.19	0.35

## Bond

	Close	CHANGE
5Y (THB)	2.411	0.000
10Y (THB)	2.615	0.000
5Y (USD)	4.360	0.059
10Y (USD)	4.191	0.039

## Commodity

	Close	CHANGE
GOLD	1,910.6	-2.3
WTI (Oil)	82.51	-0.68
Copper	8,291.5	-3.0

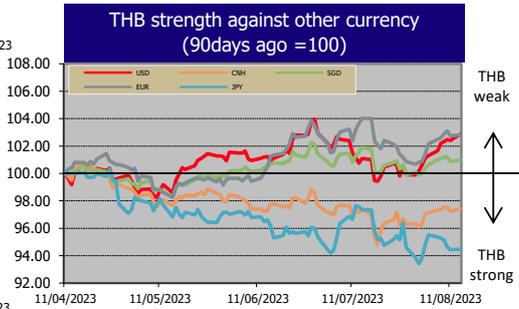
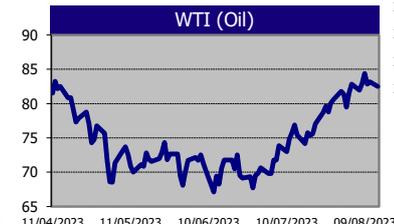
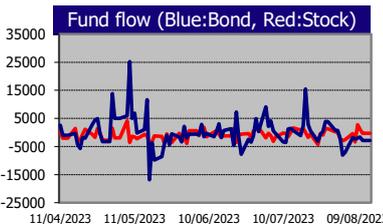
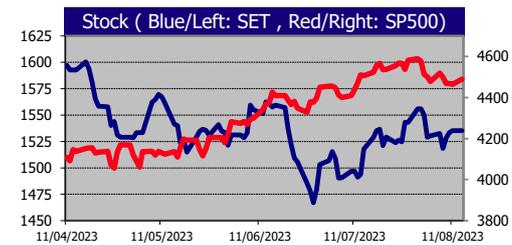
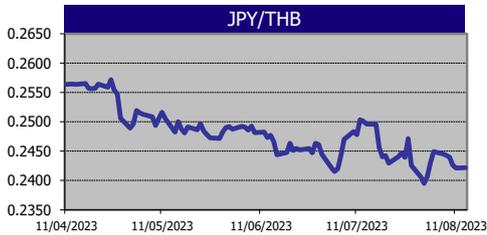
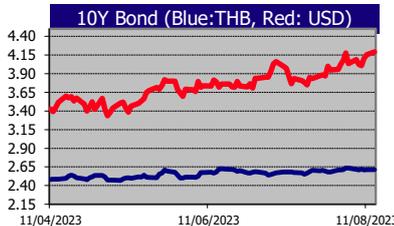
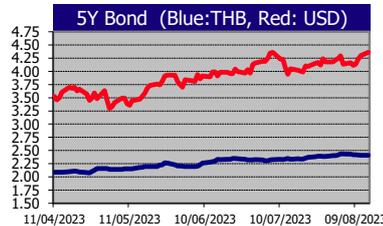
## Stock

	Close	CHANGE
SET (TH)	1,535.16	0.00
NIKKEI (JP)	32,059.91	-413.74
DOW (US)	35,307.63	26.23
S&P500 (US)	4,489.72	25.67
SHCOMP (CN)	3,178.43	-10.82
DAX(GER)	15,904.25	72.08

## Fund Flow (Overseas Investors)

	Close	CHANGE
Stock net flow	(349)	0.0
Bond net flow	(2,853)	0.0

\*compared with previous day  
(Source: Bloomberg)



## Yesterday's market summary

### ●ドルパーツ

・11日(金)のドルパーツは35パーツ台前半でスタートし、同水準で狭いレンジでの推移に終始。前日の米7月CPIが市場予想を下回ったものの伸びは前月から加速していたことを受け、米追加利上げの懸念が一部残存する中、ドルパーツはスタートから底堅い推移を見せた。ただ、上値追いも限定的となり、バンコク時間午前中に同日高値を付けた後は35パーツちょう付近まで下落。その後、海外時間に発表された米7月PPIは市場予想を上回りドル買い優勢の地合いに。ただ、週末を控え積極的な取引が控えられる中、ドルパーツの値動きも限定的となり、スタートとほぼ同水準での越週となった。週明け、昨日はタイ休日となる中、中国景気減速懸念を背景としたアジア通貨の軟調な推移や米金利の上昇等を横目にドルパーツは一時7月初以来の水準まで上昇。終盤にかけて上昇は一服したものの、高値圏を維持しながら、35.25レベルで引けた。

### ●ドル円その他

・11日(金)のドル円は144円台後半の水準で取引を開始。東京休日となり、節目である145円を前にして警戒感強まる中、上値重く推移し144円台半ば付近までじりじりと下落する展開に。海外時間に入ると、7月PPI、8月ミシガン大学消費者マインド指数といった米国経済指標の結果に上下する場面が見られるも、米株の堅調な動きにサポートされ145円手前まで値を戻し、そのまま越週した。昨日のドル円は、日経平均株価の動きにドル円も振られる場面が見られたものの、基本的には145円手前での水準で推移。ただ、海外時間に入ると米金利の上昇を受け、幅広くドル買いが進む展開にドル円は一時145円半ばまで上昇。その後弱含む場面を見せるも、終盤にかけて再度米金利が上昇するとドル円も値を戻し145.56レベルでクローズを迎えた。

## Bangkok Dealer's Eye

タイ観光庁のユタサク総裁が今年7月単月の外国人来訪者数が約247万人、うち中国からが41万人となり、新型コロナウイルス流行以降、初めて同国がトップになったと述べたことが報じられている。今のところタイ観光・スポーツ庁から公式にデータが発表されていることは確認できず、実際の数値を確認する必要はあるが、今年に入り、単月の来訪者数は全体で220万人前後、うち中国は30万人前後で増加が頭打ちになっていたことに鑑みれば、堅調とされるタイ観光業の力強さは未だ健在と見てもよいだろう。ただ、タイパーツ相場を取り巻く環境を見れば、表面化する不動産セクターの苦戦や予想を下回る結果が続く経済指標等を背景とした中国経済低迷に対する警戒感の高まり、総選挙から首相決定までの期間が過去20年間で最長を記録する等、未だ先行き不透明感が拭えないタイ国内政治動向、といった不安材料が重くのしかかる。タイ7月消費者信頼感指数が14か月ぶりに前月を下回ったことが話題となっているが、やはり足もとは不安材料が意識されやすい状況にあるのだろう。しばらくドルパーツは軟調な地合いが続きそうだ。(末廣)

The report is prepared for the sole purpose of information only. It is not an invitation to trade. The writer's view expressed herein would not be substituted for the exercise of rational judgement by the recipients.